

令和5年度

中標津町総合教育会議議事録

令和5年度中標津町総合教育会議

1 日 時 令和6年3月27日(水) 13時30分～14時40分

2 場 所 中標津町役場 101号会議室

3 出席者

町	長	西	村	穰
教	育	山	田	康
委	員	義	盛	幸
委	員	南	む	つ
委	員	青	山	幸
委	員	細	谷	俊
教	育	山	宮	克
教	育	二	本	柳
管	理	表	健	一
総	務	桐	島	秀
学	校	下	村	浩
指	導	佐	藤	雅
社	会	七	條	隆
学	校	加	藤	崇
農	業	西	東	仁
書	記	高	津	彩
				花

4 欠席者 なし

5 傍聴者 なし

6 議 事

- (1) 中標津町教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書について
- (2) 令和5年度標準学力調査について～中標津町における調査結果～

## 1 開 会

### ○管理課長

本日は、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。

只今から、令和5年度中標津町総合教育会議を開催いたします。

開催にあたりまして、西村町長よりご挨拶申し上げます。

### ○町長

それでは、大変お忙しいところ、教育委員の皆様に関しましては、ありがとうございます。また、教育長以下職員の皆様に関しましても、ご苦勞様でございます。

今後の中標津町の教育の方針につきましても、お話しいただく場でございます。どうぞよろしく願いいたします。せっかくコロナが明けたんですけれども、2か月ほど前にコロナを患ってしまいまして、喉の調子がいまいまいちよくないのですが、よろしく願いしたいと思います。

さて、議題に触れますけれども、人口がどんどん減っていく中で、教育の在り方、そして教育施設、いろんな問題がたくさん絡んでくるわけございますけれども、今回もそういった議題もいくつか入っているところでございます。

将来に向け、町の在り様も含めて、本当にいろんな部分で人口減少というのは大きな問題になろうかというふうに考えているところでございます。人口が減るということは、子どもの数が減るんですけれども、その部分に関しましてはまだ具体的な良い策がなく、傾向が収まらない状況でございます。

それらも含めて、将来に向けてしっかりとした対策しなくてはいけないという状況でございますので、是非、皆様方のお力添えをいただきながら、しっかりとした教育づくりに励んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い

申し上げます。

本日は、よろしく申し上げます。

### ○管理課長

それでは、早速、議事に入らせていただきますが、中標津町総合教育会議設置要綱第4条第3項の規定により、これより町長が議長となり進めさせていただきます。

それでは、西村町長お願いいたします。

### ○町長

よろしくお願いいたします。

まずはじめに、中標津町教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書につきまして、説明をしてください。

## ◎中標津町教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書について

### ○管理課長

はい。それでは、私から説明をさせていただきます。

皆さんのお手元にあります、令和4年度中標津町教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書をご覧ください。

この報告書につきましては、令和6年2月8日に開催した中標津町教育委員会外部評価委員会の評価を得まして、報告をするものでございます。今後につきましては、町のホームページに掲載する予定となっております。

それでは、内容についてご説明いたしますが、評価報告書については、事前に1月定例教育委員会にてご説明をさせていただいておりますので、今回は教育委員会の開催状況や教育行政方針などは添付しておりません。令和6年2月8日に開催した評価委員会での評価意見書及び教育行政企画評価のみ、議事資料として添付しているところでございます。

お手元の資料6ページをお開きください。

教育行政施策評価でございまして、第7期中標津町総合計画に基づく施策評価の結果を掲載しているところでございます。

今年度の外部評価につきましては、第7期中標津町総合計画に基づき、令和4年度に取り組まれた主要施策について、担当部長職、課長職が実施した一次評価及び中標津町行政改革推進本部による二次評価を実施した内部評価のうち、教育委員会所管の14施策を対象として、中標津町教育委員会外部評価委員会において、協議を行ったところでございます。

その結果、8ページから43ページの14施策全てで、二次評価のとおりとなったところでございます。

続いて、1ページから4ページの外部評価による意見書となりますが、4主

要施策について、意見が出されたところがございます。意見につきましては、3ページから4ページに記載をしているところがございます。

先程の8ページから43ページの施策評価の中で、3ページの①幼児教育の充実でございますが、こちらについては、先程のページ数でいうと、8ページから9ページに施策評価が載っております。

学校教育の充実、幼児教育の充実の意見で、新施設建替えにあたっては、計画的に実施をしていただきたいという意見でございました。

続いて、②の施策評価の方では12ページから13ページになりますが、学校教育の充実、学力向上・健全育成の推進への意見で、全道的に学力が低いと言われているので、家庭学習も含めて学力向上に努めてくださいという意見でございます。

続いて、4ページになります。施策評価調書では22ページから23ページになります。学校教育の充実、教育環境の充実への意見で、今後も調理員の待遇改善、人員確保に向けて、引き続き取り組んでいただきたいという意見でございます。

次に、施策評価調書では28ページから29ページになりますが、生涯学習の推進、生涯学習環境の充実への意見で、施設の維持管理については、これまでも言われてきているが、財源の確保については広い視点を持ち、町全体として考えていただきたいということで、施策評価への意見については以上になります。

2ページに戻っていただいて、全体に関わる意見として、教育委員会職員につきましては、学校教育から社会教育まで広範囲で業務をこなしていると感じている。職員がこれだけの事務事業に取り組んでいるので、自信を持って評価を行ってほしい。その中で、職員だけでは気付かない部分や足りない部分につ

いて、町民の皆様にご協力いただきたいと言えるような教育行政を取り組んでいただきたい。扶助・共助の考え方をもち、協働の教育行政に向かって、誰のための教育行政なのかという観点を忘れず、これからも事務事業を進めていただきたいとの意見をいただいたところでございます。

この意見を踏まえ、教育委員会評価委員会でいただいた意見を、今後の施策事業に反映するよう努力して参りたいと思います。

説明については以上でございます。

#### ○町長

説明が終わりましたので、ご意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

この件はこれで終わります。

次に、令和5年度の標準学力調査につきまして、説明をお願いします。

## ◎令和5年度標準学力調査について～中標津町における調査結果～

### ○指導室長

お願いいたします。指導室佐藤です。先程、管理課長から説明がありました外部評価委員会の中で、道内小中学校の学力低下状況について、ご指摘を受けております。

また、総務文教常任委員会におきましても、英語の学力向上について回答を求められました。そこで、私から、昨年12月に町内小中学校で実施された標準学力調査の結果を基に、町内の学力向上に関する取組について、ご説明いたします。

資料「令和5年度標準学力調査中標津町における調査結果」1ページをご覧ください。ここから資料3ページまでが、各学年の評価・カテゴリ別の正答率の結果になります。

資料3ページの下段のグラフをご覧ください。各学年における各教科の正答率と全国平均との比較になります。昨年度と同様に、小学校4年生まではおおむね学力の定着が見られます。これは、近年の授業改善の積重ねの成果ではないかと思われま

す。反面、小学校5年生以上の学力の定着に課題が見られます。

また、小学校、中学校どちらにおいても、学年が上がるごとに定着が不十分になる傾向が見られます。小学校の算数の学習は、3年生と5年生で内容が大きく変化します。その変化に対応できない要因はなんなのか、各校での分析が必要だと思われま

す。資料4ページからのグラフは、同一学年の経年変化になります。こちらは、学年によって定着に差が見られる状況にありますが、やはり、5年生の算数から対応できていない傾向が見られます。

以上を受けまして、考察したのが資料6ページになります。考察内容は、昨年度と大きく変化はありませんでした。つまり、中標津町の学力向上の伸びしろの部分であると同時に、取組内容に改善が必要な点だと考えられます。そこで、今後の取組の視点として、2点挙げています。

資料7ページをご覧ください。学校改善支援プランでも示しました、ICT活用と体験活動が今年度の重点キーワードとしています。そこで、視点1に追加する形で示させていただきました。

1点目は、小学校5年生以降の算数、数学についてです。今年度も算数、数学を重点教科として、指導室では各校に意識していただいております。積上げの評価ですので、一朝一夕に改善は難しいとは思いますが、子どもたちが困り感を抱えているのは数値から明らかです。子どもたちの困り感に今一度寄り添っていただき、子どもが学ぶ授業改革を進めていただくよう、指導助言を行っております。

2点目は、見取りと評価についてです。教師が教えたことで満足するのではなく、子どもたちが何を学んだのかを見取り、指導に活かす評価を充実させることを、チーム学校として進めていただきますよう、指導助言を行っております。学力テストの結果は、学力の一側面でしかありませんが、その一側面を切り取っても、力がついたと言える子どもたちを育てたいと思います。そのためには、今回の結果も、学校で、学園で共有し、9年間の学びを更に整えていただきたいと考えております。

私からは以上になります。

## ○町長

説明が終わりましたので、ご意見をいただきたいと思っております。

### ○義盛委員

すみません、よろしいですか。

考察のところですね、特に算数のところ、3年生と5年生のところ少し内容が変わってくる。そのうえで、5年生になると困り感というような表現をしていただいたんですけども、困り感というのは、実際に理解できずに戸惑う状況を表しているんですか。それとも、諦めているところまでなのか、どういふようなものを困り感と認識したらよろしいんでしょうか。

### ○指導室長

3年生になると、掛け算を使つての割り算が出てくるというところが1つの大きなところですよ。

そこはなんとか越えていけているんですけど、5年生になると、今度は速さであつたり割合であつたりが出てきます。

そうなってくると、四則演算ができて、それをベースの上に、新しいものが積み重なっていきますので、そうなってくる時に、計算でつまづいている子となると、今の授業は分かるんだけど、定着として中々うまくいかないお子さんが出てしまうというところが考えられると思います。

町全体での傾向ですので、一人一人のつまづき具合というところまではいけてはいないんですけども、本当にお手上げというよりかは、学習を定着させるのに困り感を抱えているというように感じてはいます。

### ○義盛委員

最初は理解はしているということですね。

### ○指導室長

はい。その授業の中では、ある程度、その問題はできるんですけども、形

が変わった時とか場面が変わった時に、それを活かして使いこなすことができるかと問われると、やはり困っているのではないかなと思っています。

○義盛委員

そしたら可能性はあるわけですよね、そこを定着さえさせれば。

○指導室長

可能性がないわけではないです。

○義盛委員

その子の取組次第では、学力の伸びしろは当然あるということですね。

○指導室長

はい。そう思っています。

○町長

小学校5年から考える力が必要なのは昔からあまり変わってないね。その対応を3、4年くらいまでに基礎をがっちりやっとなないと、そこにいった時に組立てがわかんないとなるんですよね。

○指導室長

最近の問題の傾向として、複合的にいろんな要素を組み合わせ、問題を解く、課題をクリアしていくというところになっていくので、読む力のところもでてくるでしょうし、計算もそうですし、考え方だったり公式だったりというものがどんなふうに使えるのか、というところが求められています。

○義盛委員

難しいですね。日本語運用能力も当然大切ですしね。

○教育指導監

室長からもでてました、7ページにあります視点1に、授業改善、授業改革

という言葉がありますけれども、各学校で今言ったような課題をクリアするためには、授業を変えていかないとだめだというのが根本にありますので、町内の先生方一体的に、授業改善に向かって学力を上げていけるように、教育委員会としても補佐していきたいと思っております。

○義盛委員

よろしく願います。ありがとうございます。

○町長

他にありますか。

○細谷委員

よろしいですか。視点1の授業改革のところにある②丸山小学校の好事例というのは、具体的にどのような内容でしょうか。

○指導室長

学校改善支援プランというところで載せたものの視点になっておりまして、その時に載せたのは、1年生のスタートプログラムと体験活動を使った取組が大変良かったので、そこは紹介させていただきました。

1年生の朝の時間、短い時間なんですけれども、体験活動を取り入れて、朝活動してから授業に入ることで、ちょっと落ち着かないお子さんでも、朝動くことでクールダウンして、落ち着いて取り組むことができるので、是非町内の各小学校でも取組を進めていただければと思っております。

もう1つが、丸山小学校の近くにみどり川というのと、丸山公園だったり、農園活動だったりというもので、いろんなところで体験活動をしているので、そういう体験活動をしながら学びと繋げていくというところを進めていたので、その辺も紹介させていただいております。

### ○細谷委員

ありがとうございます。ちなみに、丸山小学校が宿題を出さないという家庭学習の方針があるらしいんですけども、町内の他の小学校と学力を比較した時に、その辺で何か影響が良い部分、悪い部分って出ていたりするのでしょうか。

### ○指導室長

学力テストの数値でいいますと、丸山小学校の方が高いです。

先程の指導監の指摘にあったとおり、授業改善という部分で、子どもが主体的に学び取っていくという部分になっていくことで定着していく、先生が教えている授業から、子どもが自分で知識を取っていくことによって、先程の活用するという部分に、先生が教えているとそのパターンは理解できるんですけども、そうじゃないところでなかなか応用が、という部分もありまして、やはり自分で身に着けた力で活用していくということが求められるのかなというふうには捉えております。

### ○教育長

補足しますと、例えば、授業参観に行きます。丸山小学校の授業は落ち着きがないんです。先生が教え込むというよりも、例えば、グループで学習したりとか、立ち歩いて誰かに聞きにいったりとか、そういう授業なんです。

ところがそれに比べると、極端な言い方をすると、中標津東小学校、中標津小学校はまだまだ先生が黒板に字を書いて、子どもたちに教え込むという授業の傾向が強いです。

さらには、プログラミング教育ってありますよね。パソコンでプログラミング学習とか、そういうのも率先してやっているわけです。子どもたちが自分た

ちで楽しく学ぶ、進んで学ぶっていうのが非常に取り入れられていますので、その辺の効果は非常に大きいのかなというふうには考えてます。

先生方の意識自体が随分変わってきました。そう捉えていただくと。だから極端な話、家庭学習はあんまりこれやりなさいあれやりなさいと言わなくても、やる子はやるし、ということなんです。

#### ○細谷委員

ちなみに、結構学力の数値的な差っていうのは大きいですか。

#### ○指導室長

少しあるかなと思います。

#### ○教育長

計根別も決して低くないんですよ。何年か前までは計根別が断トツだったんだよね。

#### ○細谷委員

僕、子どもが3年生と5年生にいるんですけども、ちょうど計根別の方針として学年プラス20分、今家庭学習の方針として主になっているものだと思うんですけども、時間をやらされてる感が子どもたちの中で強いんですよ。その時間をやらないといけないというよりも、この時間をどうやってつぶそうかなというような感覚をもってる子が、やっぱり子どもの友達とかに話しかけても、何分やらなきゃいけないからというような感覚を持っている子たちが強いんで、そこら辺の考えを変えてあげないと、せっかく時間をやらせてても何も身にならない時間になってるかなという気はすごくします。

なので、是非丸山小学校の上手くいっている部分を、町内の学校で共有できれば全体的に伸びていくのかなと思いますので。

## ○教育長

ところがですね。家庭学習については、丸山小学校に関しても何で出さないんだという保護者の声も多いんですよ。どこも多いんです。そこも、子どもの実態を考えながら、そこはしませんと学校が自信を持って言うようになればいいんですけど、なかなかそこは難しい。親御さんとしても、まだまだ家庭で勉強して宿題をクリアすれば学力は上がるっていう思考が強いですから、そこをやっぱり親御さんの考え方も変えていかなきゃいけないんです。なかなか難しい部分です。

## ○細谷委員

そうですね。親御さんからの話を聞いてると、先生たちが宿題を出すという仕事を放棄してるみたいな捉え方をしてる親御さんも非常に多いんで、家庭学習の本質を親御さんも含めて根本的に変えていかなきゃ浸透していかないのかなと思います。

わかりました。ありがとうございます。

## ○町長

他にどうでしょう。それではこの件はこれで。

## ○南委員

不登校の子どもの関係でちょっと。学校の先生とか非常にいろんなところでフォローしているようなんですけども、親御さんの方が、病院に連れて行ったり、1日中子どもの顔色をみたり、自分の子育て間違っていたんじゃないかって、非常に悩んでいるお母さんを知ってまして。学校の先生についても、その不登校の子どもだけじゃなく、学級にも何名も生徒さんを預かっているんだから、そんなにそんなに手厚いこともできないでしょうしね。学校教育で

は、不登校の問題っていうのはこれ以上無理なんじゃないかなって。

そしたら、社会教育の方でね、例えば、フリースクールじゃないですけども、1か月に1、2回集まって、社会教育という民間の人たちとの関わりでね、その不登校である子どもたちをなんとか家から引き出す、連れ出す方法はないのかなと思っているんですね。

確かに、相談センターであるとか、学校関係であるとか、非常に関わってくださっていることは、そのお母さんもおっしゃっていましたがけれども、限界なのかなって思ったんですけれども。いかかでしょうか。

## ○二本柳教育指導監

1か月ほど前の数値で、小学生で、30～40名くらいの子どもが年間30日以上欠席しています。中学生で、60名くらいの子どもが年間30日以上欠席があります。このあと、もう少しこの数が増えるかもしれません。まだ、3月いっぱいのものでまだきていないので、増えるかもしれません。

それで、不登校の子どもたちも、いろんな理由があって学校に來れていない状況もあります。家庭の問題だとか、学力の問題だとか、朝起きれないとか体の問題だとか、子どもそれぞれの理由があります。

なんとか学校に登校できるようにというのが1番いいんですけども、なかなかそこよりも、まずは、学校に來れなくても勉強ができるようにとか、学校に來れなくても何か社会と関わられるようにということで、何かできないかなと探っているところです。学校と教育委員会とで連携を取りながら、一人一人の状況などを掴んでいるところです。今、相談センターで、なんとか自分の好きな、頑張りたいような教科なりを聞いて、それをするために來てみないかというようにことだとか、何がしたいのとか、家庭の要望を聞きながら、そう

いのができるセンターにできたらいいなというふうなことで、センターの先生とも話をしていたところで。家にずっといる子どもたちが、なんとか外に出るように、そういう方法を探っていきたいなと思っています。

また、南委員からあったとおり、親御さんがそういったことで悩んでいるなら、何かその手伝い、カウンセラーの人に繋ぐだとか、いろんなそういうようなことも考えていきたいなと思っています。すごくこれからの不登校の子どもたちをどうするかってことが、大きな課題かなと思っています。

### ○町長

高校では、N高とかネット上の高校とか。大学もできるんですよ。

### ○教育長

さっき、南委員にご相談するような方は、かなり問題意識を持っている方で、そういう方もいらっしゃいます。でも、今世間では、学校に行くばかりがいいことじゃないっていう風潮もあって、まあいいやっておっしゃる家もいる。それから、子育てなんか眼中にないって言ったら言葉悪いですけれども、生きていくだけで精一杯とか、私の生活が、僕の生活がって、そういった家庭もあるので、私らの子どもの頃のように、学校に行き当たり前、行かないとお天道様に恥ずかしいというような感覚は一切通用しないので、本当に難しいです。

### ○南委員

そのお母さんには、人生80年、100年の中のたった3年間だってって慰めるしかなくて。そのお母さんは仕事されてて、兄弟もいるから下の子の心配もしたりして、かわいそうだなって。大丈夫大丈夫っていうことしかできないけど。そういったはけ口をできる場所とかね、あるといいなって。確かに、相談セン

ターに行くには、お母さん敷居高いっていうのね、どうしても。

### ○教育長

全然高くないんですけどね。逆にそういういろんな人が集まるスペースになると、今度そこに行くのも勇気がいることで。一步踏み出してみませんかって声を掛けてもらって。ざっくばらんにお話し聞いてくれるので。学校行け学校行けって言わないので。

### ○町長

よろしいですか。

それでは、全て議事が終わったということで、会議を終了したいと思います。

今後もですね、多くの意見をいただいて進めていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

以上もちまして、令和5年度中標津町総合教育会議を閉会いたします。

どうもありがとうございました。